



小学生新聞

2020
(令和2年) 5/31 日曜日

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-3274
メール maishou@mainichi.co.jp

きょうの紙面

列車に
乗ろうよ!
寛の鉄道全線完乗

いさぶろう号
8面

こどもしんぶん
3面

ないしょのいちば

お野菜道場 4・5面

ピーマン

あなたのSDGs 7面

自分の1日とつなぐ

コロナ危機

前回、この欄でみなさんにお会いしてからまだ3か月なのに、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的な大流行)で、世界は全く異なるところになってしまいました。みなさんの周りでも、外出や登校ができないなど、以前は想像もできなかったことがたくさん起きていると思います。

私のいるアメリカのニューヨーク市では、3月末に感染者が急増し始め、国連職員も自宅

中満泉さんから
地球を変える
あなたへ 13



◇中満泉さん【国連事務次長】 1963年生まれ。アメリカの大学院を経て89年に国連入り。難民保護や国連平和維持活動、核兵器禁止条約の採択などのために働いてきた。著書に児童書「危機の現場に立つ」など。

辻村深月さん

内山節さん

バトリック・ハーランさん

池上彰さん

皆が安全でなければ

家で仕事をするようになりまして。4月の最も大変な時期に、市内の死者は毎日800人近く。私の友人や同僚にも感染したり、家族を亡くしたりした人がいます。ようやく死者が毎日100人以下になってきました。私はこの危機の中、家族といわれることに感謝し、感

は、私やみなさんの人生にとってのその時だと思っています。人類の歴史も、パンデミックによって影響を受けてきました。14世紀のペスト、16世紀の天然痘、19世紀から20世紀のコレラ、そして1918年のスペイン風邪(インフルエンザ)など。歴史が大きく動いた背景に

るための活動を続けています。今後感染拡大が心配される途上国のコロナ対策を援助したり、危機に対応できるよう政策を提言したり……。コロナ危機は公衆衛生や医療だけでなく、経済、社会、人権、地球環境などあらゆる分野に影響があるので、政策提言も多岐に

めています。先日、その議論に参加してくれた世界的な歴史学者、ユバル・ノア・ハラリさんの言葉が強く印象に残っています。「コロナ後の世界がどのようなものになるのかは誰にもわからない。わかっているのは、世界のあり方が、私たちの現在と向こう数か月の行動にかか

とで、未知のウイルスやばい菌が出現すると科学者は警告しています。

「ありがとう」を

私たちは、そしてみなさんは、今何をすべきでしょうか。父は「危機の時こそ、その人の人格が見える」と言いました。大変な時ほど、冷静に寛容に、周りの人に配慮し、謙虚に学び行動しましょう。ウイルスは正しくおそれ、人には思いやりを持ち、「ありがとう」と言いま

は、パンデミックがあったと言われるほです。

分かれ道にいる

国連はコロナ危機を乗り越え

わたります。

同時に、私たちは「コロナ後」の復興をどうすべきか、その途上で国連が果たすべき役割とは何かを幹部会で議論し始

っている、ということだ。私たちは歴史上の分岐点(分かれ道)にいるのだらう」

コロナ危機で私たちは、世界がいかにか「つながっている」か、そして実はいかにもろかったのか目の当たりにすることに

なりました。私たちが本場に歴史の分岐点にいるとしたら、危機をきっかけに、復興後の世界をより良いものにしなければなりません。最も生活に困る人たちに配慮しながら経済を再開し、格差を解消し、新しい働き方や教育の可能性を広げる。行政サービスの効率化にもなるデジタル化も急がなくてはなりません。そして地球温暖化を悪化させない経済復興でなければなりません。温暖化によって氷河や凍土が解けるこ



Bangladeshの貧困地区で、新型コロナウイルスの予防について伝え、衛生用具を配る国連開発計画の担当者
—提供・UNDP Bangladesh/Fahad Kaize.

京都大学の山中伸弥教授は、コロナとの闘いは「長いマラソン」のようなものだ、とおっしゃっています。このマラソンを、みんなで助け合って走り抜きたいです。

感染症との闘いは、社会を構成する全ての人が、そして国境を超えた団結と連帯が必要なものはありません。取り残された人がコミュニティの中にいる限り、そして世界のどこかにいる限り、ウイルスはまた戻ってくるでしょう。皆が安全でなければ、誰も安全ではないのです。